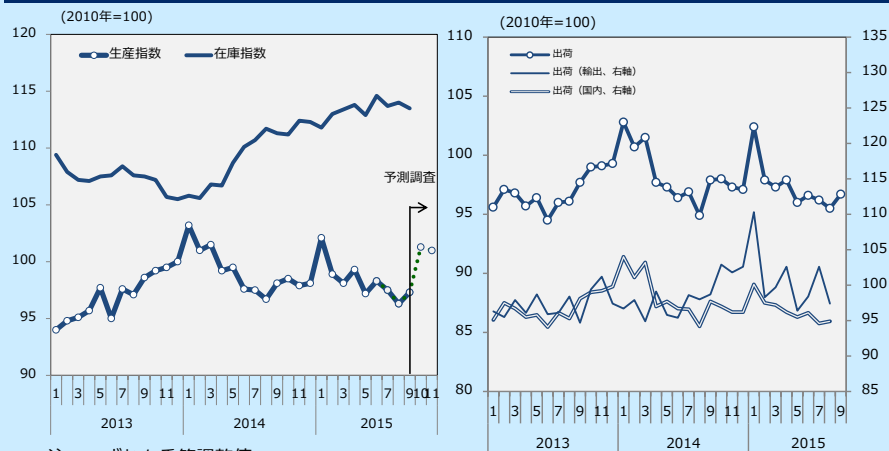


日本：鉱工業生産指数（2015年9月）

－生産は3ヵ月ぶりに上昇も、業種間で明暗が分かれる－

MRI Daily Economic Points
October 29, 2015

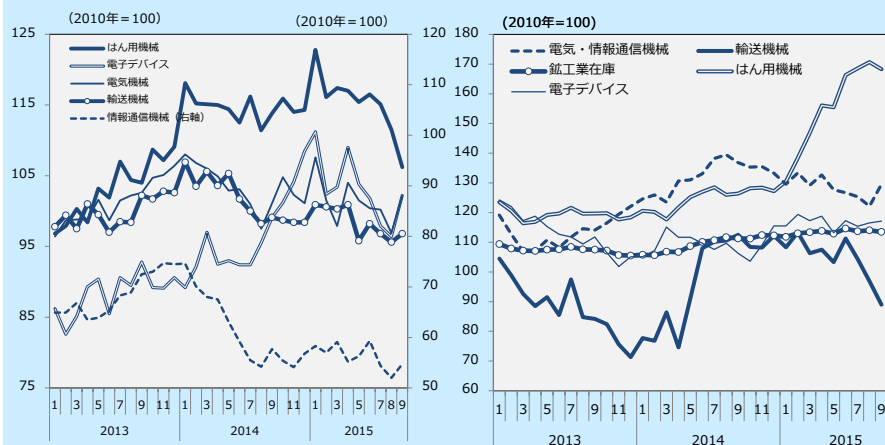
図表 生産・在庫指数／出荷指数



注：いずれも季節調整値

資料：経済産業省「鉱工業指数」

図表 業種別の生産指数／財別在庫の推移



注：いずれも季節調整値

資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2015年9月の結果

- 2015年9月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+1.0%と、3ヵ月ぶりにの上昇。出荷指数も同+1.3%と、3ヵ月ぶりに上昇した。先月の時点では、9月の生産は+0.1%上昇の見込みだったが、大きく上振れた。
- 9月の生産の業種別内訳をみると、はん用機械（同▲4.8%）では減少が続いているものの、輸送機械（同+1.3%）が微増となったほか、電子デバイス（同+6.0%）や電気機械（同+5.4%）がスマートフォンの新機種発売に伴い増加するなど、業種間で明暗が分かれた。
- 在庫指数は前月比▲0.4%と2ヶ月振りに低下した。海外需要の鈍化や、改正オフロード法（※）適用前の在庫積み増しなどを背景に、投資財、はん用機械は引き続き高い水準にある。ただし、輸送用機械など耐久消費財は在庫水準が低下しているなど、在庫水準も業種ごとに濃淡がみられる。
（※）ブルドーザやコンパインなど特殊自動車の排ガスの規制を定めた法律。平成26年より窒素酸化物を9割削減する規制強化を行っており、定格出力に応じて平成26年10月、平成27年10月、平成28年10月から、新しい規制の適用時期に経過措置を設けている。
- 7-9月の生産は季節調整前期比▲1.3%と2四半期連続の減少となった。製造工業生産予測調査では、10月は前月比+4.1%、11月は同▲0.3%を予測している。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、15年入り後はアジア経済減速の影響などから、弱い動きが続いている。輸出の減少が生産低下の主因となっているが、海外経済の不安定化を受け、国内向けの出荷も年初以降弱含んで推移している。
- はん用機械などアジア向けの生産が多い業種では、生産が低調で、在庫水準も引き続き高い。しかしながら、輸送用機械や電気機械などの業種で在庫調整が進展し、生産も上昇するなど、以前と比べれば明るい材料も増えている。
- 生産は、雇用・所得環境の改善による内需の回復持続などを背景に緩やかに持ち直すとするが、世界経済の先行き次第では、輸出の低迷を起点とした生産の落ち込みが長期化しかねない。